

## 令和3年度第2回福岡市動物の愛護と管理推進協議会議事録（抄録）

1 日時：令和3年7月16日（金） 14時00分～16時30分

2 開催方法：オンライン会議

3 出席者

(1) 学識経験者

- ① 佐々木委員（筑紫女学園大学現代社会学部）・・・会長
- ② 有馬 委員（福岡県弁護士会）
- ③ 木下 委員（日本大学商学部）

(2) 動物愛護に関する法人等

- ① 東田 委員（一般社団法人福岡市獣医師会）・・・副会長
- ② 森田 委員（一般社団法人九州動物福祉協会）
- ③ 松崎 委員（NPO 法人犬文化創造ネットワーク）
- ④ 富士岡委員（一般社団法人 HUG）

(3) 動物愛護団体等

- ① 波多江委員（福岡県愛玩動物協会）
- ② 木本 委員（ライフリレー博多ねこ）

(4) 行政関係者

- ① 長尾 委員（福岡市早良区保健福祉センター地域保健福祉課）
- ② 小野 委員（福岡市保健福祉局生活衛生部）

4 議事録（抄録）

(1) 開会

(2) 挨拶

(3) 報告

ペットに関する市民意識調査結果の概要について

以下、◎：会長，○：副会長，□：委員，■：事務局

■ 説明（報告資料参照）。

□ まち中の野良猫をよく思わない人は、猫がいること自体嫌だと思っている人だけではないと思うが。

- 確かに野良猫自体に否定的な考えの人と野良猫を飼い猫にしていきたい考えの人の両方が含まれていると考えられる。
  
- 地域猫活動の認知状況が35%程度と低いが、80%が賛成と回答している。知らない人や困っている人も何らかの対策が欲しいと感じているということだと思うので、野良猫対策としてもっと周知していく必要があると思う。
  
- アンケートには自由記述もあるのか、あるなら猫問題についてどのような回答があったのか。また、単純集計だけでなく年齢や性別、地域等でクロス集計や変量解析を行うことは可能か。
  
- 自由記述もあり、猫に関しては迷惑被害や給餌について、反対に愛護的な政策の推進など様々な意見があった。クロス集計も行っており、それを含めた完成版については後日提供とホームページでの公開を考えている。
  
- アンケートの際には地域猫活動の説明も行ったのか。賛否や参加意向の回答は活動内容を分かっただけでの回答なのか。
  
- 地域猫活動の解説を付けて行ったので、内容を見て賛成と答えた人が多かったが、実際に自分がやるかという別問題だと考える人が多いのだと思われる。
  
- 鑑札と注射済票の装着が法律で義務付けられていることを知っていた人の割合が減っているのは、未装着の人に絞って聞いたからではないか。
  
- ご指摘のとおり質問の対象を絞ったのが要因と思われる。
  
- ◎ 今回のアンケート結果から、今後の福岡市の方向性や強化を考えている施策等はあるのか。
  
- 装着率の低かったマイクロチップ装着の推進や、アンケート結果では被害を受けた人は少なかったが多頭飼育問題への対策、それから飼い主のいない猫問題について、これまでの地域猫活動に加えて何か新しい施策等を考えていく必要があると考えている。

(4) 議事

「第3次福岡市動物愛護推進実施計画」の素案について

- 説明（説明資料①、②参照）。
- 実質的殺処分について再度説明をお願いしたい。
- 参考資料1のとおり、殺処分について疾病や攻撃性等により譲渡することが適切でない場合の殺処分が①、①以外の譲渡先が見つからない場合や収容能力の関係で譲渡できるのに殺処分を行ったものが②、引き取り後の死亡が③と環境省が分類しており、①をやむを得ない殺処分、②を実質的殺処分としている。
- ◎ 施策の柱と具体的施策についてはもう少し整理が必要だと思うが、第2次計画にあった短期、中期、長期といった分類はどうなるのか。
- 分類については、今回の議論を受けてお示ししたいと考えている。

(5) 議事

第2次計画の具体的施策の方向性について

- 説明（説明資料③参照）。
- 犬猫パートナーシップ店、譲渡サポート店制度については第3次計画には記載なしとなっているが、第2章では動物取扱業者の課題に挙げられている。どのような取扱いになるのか。
- 制度を策定したということで完了にしているが、今後の課題としてこの制度を効果的に推進していきたいと考えている。
- ◎ この制度の良い点は、譲渡を促進する役割を担っているところだと思うので、その特性を今後どう活かしていくのか期待している。

(6) 議事

次期計画で取り組むべき重点課題と具体的施策について

- 説明（説明資料④課題1参照）。
- 「飼い主のいない」とはどのような状態を指すのか。これまでは給餌者にも飼い主に準じた責任があると指導されてきたと思うが、猫に適当に給餌する人が多く、また猫の場合は登録制度もなく中途半端な状態だと思うのでその辺りどう見ていくべきなのか。
- 難しいが、給餌者の申告により飼い猫かどうか判断するしかないと思われる。
- 所有者及び占有者という形であれば、放浪している猫に給餌している場合も一時的には占有しているので飼い主になるように思うが、この辺りをどう定義するかは重要になってくると思う。
- 飼い主のいない猫というのは本当に都合の良い言葉で、給餌者も状況によって使い分けたりするので、屋外の猫とか何か別の表現はできないのかと感じる。飼い主のいない猫と括ってしまうと、飼い主ではないからと言って責任逃れすることにもなりかねないと思う。
- 法律等で所有者のいない動物という表現をしており、所有者の有無が飼い主責任に大きく影響するところでもあるため難しいと思うが、分かりやすい表現があれば変更可能だと考える。
- 飼い主はいないが管理している人がいるというところで、逆に分かりづらくってしまっていると思うのでぜひ検討してほしい。それから、餌の放置などこれまでの給餌方法を変えられない人が非常に多いので、そのような人が給餌しなくていいように、地域の環境美化委員とか周りがサポートして管理していく必要があるのと感じているがどう思うか。
- 地域で合意形成を得て、困っている人も一緒に取り組んでいければよいが、地域コミュニティが希薄になっているところもあるので難しい部分だと感じている。地域として取り組むのが難しい地域の対策を検討する必要がある。
- ◎ 自治会との連携、あと福岡市が委嘱していない動物愛護推進員をどうするのか、地域猫活動に取り組めない地域の苦情や猫の収容頭数の削減や、さらに福

社部局との連携など重要な部分だと思う。

□ 福祉の面でいうと、苦情に対し地域の方が対応してくれるというのは今のコミュニティでは非常に難しい状況で、高齢者支援は、ケアマネジャーや地域包括支援センターが主となって動いている。それに介護事業所など多職種連携で支援を行っているので、そういったところの力も借りるなど連携が必要になってきているのかなと感じている。

◎ 地域コミュニティが希薄化するなかで、犬猫を通じて近隣と繋がりができる場合もあると思う。

□ 今後子猫の収容頭数を減らしていくのであれば不妊去勢手術しかないのではないかと思う。これは、これまでの地域猫活動というより、ほぼ TNR 活動になると思うが、この TNR 活動、不妊去勢手術の補助支援というのが 1 番のポイントになってくるのではないか。

◎ 新規施策の中に TNR 活動の支援の検討とあるが、市の考えはどうか。

■ 確かに地域猫活動に加えて、TNR 活動等に取り組まないと今後子猫の収容頭数を減らすのは難しいと考えている。それから地域猫活動についても、ほかの自治体での取り組み等参考にしたい。

□ 地域猫活動は 1997 年に横浜市の磯子区からはじまり、東京や全国的に普及したもののだが、全国の事例を見ても万能とは言えない。理念は素晴らしく方法もある程度確立しているが、実際には活動者の確保や、地域単位での活動が難しく個人活動になってしまい TNR 活動と変わらなくなるといった難点がある。

地域猫活動の改善という意味では、給餌者だけでなく、困っている人や自治会、行政など様々な人が協力する方法を考えることが重要かと感じる。

TNR 活動はある種の手法であり、地域猫活動が猫の被害や苦情、近隣トラブルを減らす取り組みを地域ぐるみで行うプログラムであるのに対し、TNR 活動は基本的に猫の頭数を減らす取り組みで、その結果に付随して苦情が減るものだと思っている。

福岡市が苦情を減らすことを目標にするのであれば地域猫活動は 1 つの方法だと思うが、先ほど言ったとおり限界もあるので、苦情の内容を精査し、給餌

者や苦情者の言い分や論点を整理する必要があるの考える。

- ◎ 福岡市は地域猫活動を行っていない地域での TNR 活動の支援を検討しているということによいか。
- 地域で地域猫活動について議論したうえで取り組むことが難しくなった場合に、いくつかの選択肢の中で TNR 活動を行うということも考えている。
- これまで TNR 活動の助成を行って来たが、手術ありきで進みすぎていて、手術を実施すれば他に何も問題ないという傾向になりつつあり、苦情者が置き去りされているように感じることもあるので、そこは重要になってくると思う。
- ◎ 単に TNR 活動すればよい訳ではなく、啓発等も伴わないと弊害もあるということのように思われる。
- 関東のボランティア関係者もその辺を危惧していて、地域猫活動と言いながら環境美化等には配慮しないためトラブルが減らず、地域猫活動の方法自体が疑われてしまうケースもある。地域猫活動の目的を活動者も含め再度共有することが大事だと思う。苦情者が置き去りにならないようにという話が出たが、福岡市では給餌者と苦情者などが対話する機会などはあるのか。
- 平成 28 年度以降に地域猫活動を支援する場合は、現地調査を行い猫除け対策のある家を訪問したり、アンケート調査を実施して苦情や給餌状況の把握に努めたり、それから実際に取り組むかも含め地域での話し合いを行ってもらっているが、アンケートにはいろいろ書いてあっても、話し合いになると人が集まらなかったり、率直な意見が出ないことも多く、積極的に議論というのはなかなか上手くいかないのが現実である。
- ◎ 地域猫活動が上手くいき猫が減っているところもあるので、自治会として機能して管理が行き届けば、いい方向に向かうということはあると思う。TNR 活動も 1 つのツールとして地域の中で生きてくれば、地域の力として野良猫の数や苦情をある程度抑えることは可能ではないかと感じている。
- 猫の頭数をコントロールするのは難しいと思っていたが、TNR 活動に加えて

地域の環境整備をすることである程度コントロールすることができると感じた。そのためには地域の協力など総合的に組み合わせる必要があるとあり、行政の力がより大きくなると期待している。

- 野良猫の不妊去勢手術の問い合わせが多く、福岡県獣医師会の助成事業も応募者も非常に多いと聞いている。福岡市は飼い猫の手術の助成を行っているが、今後は地域猫活動の支援だけでなく、もっと幅広い形での不妊去勢手術の支援が必要になってくるのかなと感じている。
- 福岡市獣医師会でも数年前から TNR 活動について議論しており、TNR 活動が今後の大きな柱になると思うが、効果や福岡県獣医師会の助成事業の問題点なども含めて行政と相談しながら取り組んでいきたいと考えている。
- 猫の問題はなかなか解決しないもので、困っている人といくら啓発しても放し飼いをやめない飼い主との考え方がなかなかかみ合わないところもある。猫問題を環境問題として取り組むのは良いと思うが、それをどこからやっていくのかというのが難しいと思っている。特効薬はないけど、猫は救いたい気持ちもあるし、猫の飼い方の啓発もしていきたいと考えている。
- ◎ 福岡市内の猫の交通事故死が 5,000 頭ほどいると聞いたことがあり、そういった部分でもこの問題を考えないといけないのかなと思う。
- 猫問題を考えた時に、TNR 活動というのは何かしらの効果があると考えているが、ただ行政としては公平性を考えないといけないので、支援の条件等を検討する必要があると思っている。猫が多くて困っている地域の対策の 1 つとして、今後そのやり方についても議論していただきたい。
- 現状に対する対処療法として最も重要なのは TNR 活動で間違いのないと思うが、猫がいるからではなく、問題と思う人がいて、その声が大きくなることで問題として認識されるので、苦情の種類や内容を解決のヒントに、給餌や放し飼い、捨て猫などに対する啓発についてより具体的に検討してもらいたいし、協力していきたいと考えている。
- ◎ ここで今日の議論は終了とするが、この難問をどう解決するかということで、

今までの常識にとらわれないような、いろんな意見を出してもらいたい。

(6) 閉会